

## 【 市民部におけるタウンミーティングの開催結果について 】

「コミュニティバスの利用促進」について、多くの住民の皆様のご理解・ご協力を得るため、タウンミーティングを下記のとおり開催し、意見交換を行いました。その結果についてご報告します。

開催場所	開催日	参加人数
足近コミュニティセンター	7月31日(月)	36人
小熊コミュニティセンター	7月5日(水)	25人
正木コミュニティセンター	7月6日(木)	45人
竹鼻コミュニティセンター	7月11日(火)	45人
竹鼻南コミュニティセンター	7月12日(水)	17人
福寿コミュニティセンター	7月13日(木)	14人
江吉良コミュニティセンター	7月18日(火)	35人
資源物ストックヤード	7月20日(木)	50人
上中コミュニティセンター	7月25日(火)	43人
はしまコミュニティセンター	7月26日(水)	26人
桑原コミュニティセンター	7月27日(木)	26人
合 計		362人

## 《 タウンミーティングにおける質疑事項について 》

### 【路線・ダイヤに関する意見】

質 問	回 答
バス停を増設することはできないか。	<p>現在の運行ルートやバス停の設置については、「ルールに基づく運行時間の短縮」「1路線に2カ所以上の商業施設への乗り入れ」「利用のあるバス停は削減しない」等の観点から設計しています。</p> <p>そのため、路線全体のバランスを考えると、1カ所のバス停を増設すると他のバス停を1カ所廃止しなければならないため、当面は現在のバス停での運行を進めていきます。</p>
「東・はしまわる線」において、市民病院経由便の増加や、診療時間に合わせたダイヤを設定していただきたい。	<p>現在、「東・はしまわる線」では、小型バスで運行する第1便のみ市民病院に乗り入れており、第2便以降は中型バスのため乗り入れができない状況となっています。そこで、10月からは小型バスの台数を増やし、「東・はしまわる線」の全6便を市民病院に乗り入れます。</p> <p>なお、市民病院の診療時間に合わせた午前中の増便については、ダイヤ編成上、車両の確保は困</p>

	<p>難です。</p>
<p>南部線の平日・土曜日の昼間時間帯の継続的な運行を検討してほしい。</p>	<p>当面、現在の運行方法を継続していく予定となっておりますので、ぜひご利用ください。</p>
<p>全てのバス停にベンチや日除けはあるか。設置されていない場所にはぜひ設置してほしい。</p>	<p>全てのバス停には日除け等はありませんが、市役所南側のバス停には日除けやベンチが設置されています。今年度、羽島温泉に休憩施設を設置する予定です。</p> <p>なお、約90カ所あるバス停の中には、地域の自発的活動によりベンチが設置されているバス停もあります。利用が多いバス停に必要な応じて日除け等を設置していきませんが、全てのバス停に設置することは困難です。</p>
<p>利用者が少なければ、予約型乗合運行（デマンドバス）にすれば良いのではないか。</p>	<p>平成28年10月から半年間、南部線平日・昼間の時間帯において予約型乗合運行（デマンドバス）を行いました。予約の煩わしさ等もあり、利用者数も低調であったことから、現在は定時定路線による運行を行っています。</p> <p>また、専門家から羽島市のような居住特性においては、デマンドバスよりも定時運行の方が効率的であり、本市にはそぐわないという意見を頂いていることから、デマンドバスの運行については考えておりません。</p>
<p>J R岐阜羽島駅を強調したいのは理解できるが、羽島市役所前駅の方が住民にとって利便性が高いのではないか。</p>	<p>J R岐阜羽島駅周辺は、第六次総合計画において「にぎわい創造エリア」として、また、都市計画マスタープランでは「新都心核」として位置付けられており、市コミュニティバスの他、新幹線、名鉄、名阪近鉄バス、海津市コミュニティバス、輪之内町コミュニティバスとの広域的な結節点となっています。</p> <p>なお、羽島市役所前駅では十分なスペースが採れず、バス車両の乗り入れができない状況となっています。</p>

【料金に関する意見】

質 問	回 答
利用者は限定的であると思われるので、運賃を値上げしても良いのではないか。	コミュニティバス事業は行政サービスとして実施しています。従って、より多くの皆さんに利用していただくことで、事業収支のバランスを図っていきたいと考えています。
高齢者が現金を持ち歩くことは不安なため、自動引き落としやプリペイドカードを用意することはできないか。	他自治体における導入事例について調査したところ、費用が高額となるため、導入については困難です。

【利用促進策に関する意見】

質 問	回 答
運転免許証自主返納者に対する1カ月間無料乗車証の交付について、期間を延長することはできないか。	現在、1カ月間としている無料乗車証の交付については、その活用状況を検証しながら「検討していきます」。
子どもたちにコミュニティバスへの愛着を持って頂き、利用者増加につなげてはどうか。	現在、小学校において図書館等への校外学習に利用いただいています。 また、市内イベント等を通して、子どもたちに愛着をもっていただけるような取り組みを検討しています。
通勤・通学時間帯に比べ、昼間の時間帯は利用者が少ないが、バスのサイズについて、ある程度のルールはあるのか。	南部線の昼間の時間帯は、利用者が少ないためワゴン車両での運行をしています。市内のはしまわる線については現在、小型バスと中型バスが混在していますが、順次小型バスに更新していく予定です。
南部線の昼間時間帯に使用しているワゴン型車両が、コミュニティバスとして分かりづらいので、ラッピングをしてはどうか。	10月から「東・はしまわる線」に導入する小型バスのラッピングに合わせて、ワゴン型車両もラッピングをする予定です。

※今回のタウンミーティングにおいて、市民の皆様からいただいた貴重なご意見を今後のコミュニティバス事業に反映させてまいりますので、よろしくお願いいたします。